

地方独立行政法人岩手県工業技術センター

平成19年度第2回運営諮問会議 企画デザイン部報告

平成20年3月13日

報告者 企画デザイン部長 伊勢貴

第1回運営諮問会議についての報告事項

- ① 研究評価結果について
- ② ご助言・ご意見・ご質問等に関する検討事項

平成19年度岩手県工業技術センター運営諮問会議 研究評価結果総括表

	事業名	テーマ名	区分	所内評価	委員評価	総合判定
1	さんりく基金調査研究成果等活用促進事業	雑穀麴の工業的製造方法の確立と雑穀麴ペーストの製パンへの利用	事前	4.0	3.9	研究開始 (H19終了)
2	地域資源活用型研究開発事業	いわてヤマブドウの機能性素材化と利用技術の開発	中間	4.5	4.1	継続
3	「吟ざんが」、「ざんおとめ」ブランド化支援と新ブランド開発事業	「吟ざんが」、「ざんおとめ」ブランド化支援と新ブランド開発	中間	3.0	3.5	目的達成
	県産清酒の品質向上に関する基礎技術の実証	県産清酒の品質向上に関する基礎技術の実証	事前	3.5	3.7	研究開始
4	都市エリア産学官連携促進事業	生体用Co基合金表面への生体活性化コーティング技術の開発	事後	3.0	3.4	目的達成
5	地域新生コンソーシアム研究開発事業	使用済みサーメットを用いた高性能ダイカスト部品の製造技術開発	中間	4.0	4.1	継続 (H19終了)
6	企業ニーズ型共同研究事業	環境資材用途拡大・鶏糞炭化物利用藻礁の改良研究	事後	4.0	4.0	目的達成
7	産業廃棄物再資源化技術開発事業	県境不法投棄物溶融スラグの骨材利用	事後	3.5	4.1	目的達成
8	酸化亜鉛産業クラスター形成事業	ZnO単結晶基板の応用に関する研究	中間	4.5	4.3	継続
9	ものづくり基盤技術高度化支援事業	次世代動画像圧縮標準規格に対応する組込みシステム開発支援ツールの研究開発	中間	3.5	3.8	継続
			平均	3.8	3.9	

◆評価の目安

評価点	コメントいただきたい事項(例)
5:効果・妥当性が極めて高い	技術的改善点。配慮すべき事項。
4:効果・妥当性が高い	
3:効果・妥当性がある	
2:効果・妥当性が低い	中止・変更すべき理由、もしくは継続にあたっての改善点。
1:効果・妥当性が極めて低い	中止すべき理由。

◆区分ごとの平均評価点

区分	テーマ数	評価点	
		所内平均	委員平均
事後	3	3.5	3.8
中間	5	3.9	4.0
事前	2	3.8	3.8
合計	10	3.8	3.9

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

「ZnO単結晶基板の応用に関する研究」について

- 市場化を目指す戦略策定
- 基板の安定化、応用製品開発のスピード化
- 選択と集中

- 人・組織 ⇒ H20年度に電子情報技術部を設置
- 予算 ⇒ 県予算が厳しいなか、H20年度も一定の予算を獲得できる見込み
- 生産設備
 - ⇒ 当センターオープンラボの活用
 - ⇒ 企業間連携(トップマネジメントによるコーディネート)
- 基板の競争力強化(低価格化)
 - ⇒ ZnO基板の量産化が不可欠、量産化のキーとなるLED開発に工数を集中
- 販売支援
 - ⇒ (財)いわて産業振興センターの販売支援を受けながら営業活動を強化

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

「ZnO単結晶基板の応用に関する研究」について

- 県全体の支援をとりつけること
 - ⇒ 県予算が厳しいなか、予算的に配慮をいただいている
 - ⇒ (財)いわて産業振興センターによる販売支援をいただいている
- 予算の効率的・効果的な執行、機密保持・成果の区別・安全管理(板橋委員)
 - ⇒ H19年度に企画から1名を異動、事業とりまとめ役として配置しており、契約書や安全マニュアルを整備し、機密保持及び外部研究員・学生を含めた安全管理等に配慮している
 - ⇒ H20年度は電子情報技術部を設置

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

「次世代動画像圧縮標準規格に対応する組込みシステム開発支援ツールの研究開発」 について

- 競合製品の出現の可能性、品質・コスト面で競争できること
 - ⇒ 「開発支援ツール」としての製品はまだ無い
 - 2008 International CES (2008/1/7～10)でも、我々が目指すH.264関連は未開拓と思われた。
 - いち早い製品化が重要。競争力となるキーは高速化技術
- 開発スピードをあげ早く市場に提供すること
 - ⇒ 取引が見込める企業を訪問、ニーズを聞き、試作品の評価などを依頼済み
- 研究体制
 - ⇒ 共同研究企業が社をあげて取り組んでいる
 - ユーザ企業2社からアドバイザーを受け入れ製品化度を高めている
 - 電子情報技術部を設置し、必要に応じ体制を見直す

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

「環境資材用途拡大・鶏糞炭化物利用藻礁の改良研究」について

- 栄養素溶出速度(科学的データ)の検討
 - ⇒ 平成17年度にNPO法人が東京海洋大学の協力を得て実施
その結果を得て、当実証研究は平成18年度に行った。
- 各種条件下で対処できるよう応用を
- 他の畜産廃棄物の活用につながるか確認を
 - ⇒ 炭化するには鶏糞の粘度が適していて、豚糞、牛糞は水分調整にエネルギーが多くかかる。
- 地域経済効果が現れるように、実証試験を拡大して進めてほしい
 - ⇒ 実用化、地域に経済効果が生まれるように、着実に支援していきたい。

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

「県境不法投棄物溶融スラグの骨材利用」について

- 認定基準の策定データとして利用されたことは大きな意味を持つ。今後に期待。
- 今後は、企業化、市場化に一層努める必要がある。
 - ⇒ 市場化のための商品化試験等を実施。
 - ⇒ 県県土整備部・盛岡地方振興局土木部に、スラグ入り製品の積極的な利用を働きかけていく。
 - ⇒ 第2クリーンセンター(仮称)を設置運営する企業に研究成果を技術移転。
- 県の施策のなかで明記されることを期待する。
 - ⇒ スラグ利用製品が、再生資源利用認定製品(県環境生活部)に認定。認定製品は県の事業において積極的に使うこととされている。
- 再生ロットごとの分析などの標準化で後々問題とならないような歯止めを
 - ⇒ ロットごとの分析がJISで義務づけられた。(H19年度)
 - ⇒ 認定製品委員会に、技術、製品審査員に2名を派遣している。

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

「使用済みサーメットを用いた高機能ダイカストスリーブの製品開発」について

- ダイカストスリーブに限らず、製品化対象品の再洗い出し

⇒ おおた工業フェアで金属加工・金型製作企業4社に聞き取り調査を実施。ダイカスト金型部品への応用の可能性を示唆。(H20.2)

さらなる対象製品については、県内非鉄研究会企業等への調査や、国、県等の調査事業を活用し洗い出しを行う。

事業化については、当面ダイカストスリーブ、熔融炉掘削ビットの製品化支援を進める。(H20年度、補完コンソを予定。)その後、ストックやホットチャンバー部品への応用を図る。

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

「生体用Co基合金表面への生体活性化コーティング技術の開発」について

- 一般産業分野など、活用の道筋を明確にすること
 - ⇒ 研究成果は、現在Co基合金に関する研究開発を行っている企業への技術支援を中心に活用する。(医療用鋏、射出成形機部品・・・等)
事業化は、原材料(Co基合金)の安定供給が課題。今後の進め方について、共同研究企業、岩手大学と協議していく。

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

「いわてヤマブドウの機能性素材化と利用技術の開発」について

- マーケティングの取組み

- ⇒ ヤマブドウペーストのサンプルをメーカー等に配布したところ、県内外数社に興味を示されている。特に製パンメーカー様では、現在のジャムの代替としたいとの希望を持っている。
- ⇒ サプリメントについては、共同研究企業が販売ルートを確立している。
- ⇒ 市場化支援事例を後ほど理事長から紹介する。

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

「吟ぎんが」、「ぎんおとめ」ブランド支援と新ブランド開発」

「県産清酒の品質向上に関する基礎技術の実証」について

- 東北の他県との連携

⇒ 経済産業省、産総研東北センターのご支援もいただきつつ、秋田県と連携して進めることで合意した。

(参考: 地域イノベーション創出共同体形成事業)

地域イノベーションを担う関係機関(産総研、大学、公設試等)が協働し、各機関の試験設備機器や専門人材等の情報の相互利用を促進し、研究開発資源の強固なネットワーク形成と共同利用化を図る。

当センターでは、産総研東北センターのご支援により、食品醸造分野で秋田県と、精密加工分野で宮城県・山形県との共同研究を進める。

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

(総評)

- 「塗装剥離用ドライアイスブラスト装置の開発」の状況

⇒ 剥離技術については一定の成果を得た。

関心をもっていただいた企業と共同研究を進めている。

研究内容等については、次回の研究評価時に説明する。

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

(総評)

- 椀、盆などがどのくらいの期間殺菌効果を持つのか検討してほしい
- 漆の抗菌効果の研究に期待している
 - ⇒ 漆に関しては、金属塗装への利用についての検討を、所内裁量経費(基盤先導研究)で行っており、当面はこちらを優先的に進める

次の様な事項について研究計画に入れており、研究を進めるに当たり、外部資金を活用して行う予定である。

- 抗菌性について、どの程度の期間有効性が保たれるか
- 抗菌性を発揮する塗装方法(顔料と効果の関係の確認)

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

(総評)

- 首都圏等にいる団塊の世代の技術者を活用する施策を県として考えてもらいたい
 - ⇒ 当センターでは企業訪問での現地指導、所内技術の伝承にOBを活用している
 - ⇒ 県関係機関では、下記のような活動を行っている

岩手県Uターンセンター(有楽町駅近傍)

- 求人情報の提供
- Uターンフェア・面接会等イベント案内
- 生活関連情報の提供(公営住宅等)
- 起業に関する相談

(財)ふるさと岩手定住財団

- 岩手県U・ターンフェア
- UIターン希望者登録制度 情報誌等を定期的に提供

※ハローワーク、ジョブカフェいわて、市町村でもマッチングイベントや情報提供を行っている



主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

(総評)

- 人材育成の中心的存在として教育機関的側面をもつことも期待したい
 - ⇒ 人材育成は重要なことと考えている
 - ⇒ 現場技術者、特に遠隔地企業への支援が期待されていると認識している
 - ⇒ 平成20年度の取組については、計画に記載している

平成19年度の主な実績

- 技術者受入型開発支援 40件 46名
- 研修生(岩手大学学生、企業技術者)受入 18名
- 講習会開催 60件 1,300名
- 食品企業開発担当者等向け「出前セミナー」 11件 188名
- 一般公開日を活用したものづくり体験 小学生29名が鋳物キーホルダーづくり体験
- 北上川流域ものづくりネットワーク:加工技術者養成プログラムへの講師派遣
- 岩手県職業能力開発協会が行う技能検定へ、検定員として協力
- 他機関開催の講習会への講師派遣 (50件程度)

主なご助言・ご意見・ご質問とその対応

(総評)

- 大きなプロジェクトについては、よりしっかりした評価
- より高い専門性と見識を備えている方によるしっかりした審議
⇒ ご意見のとおりと考えており、平成20年度に専門部会の設置等を行う

(主な見直し事項、検討が必要な事項)

- 専門部会設置
- 非公開化
- 受託研究、企業ニーズ型共同研究の取り扱い
- 制度資金(競争的外部資金)の定めによる委員会等との役割分担